

平成27年度地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画の  
策定及び変更に係る検討会における有識者の主な意見等

- 計画に計上された事業については、実行率が低い。次期計画では実施率を上げていくよう努力すべき。
- 香川計画区の森林は里山が多く自然林が少ないが、希少な植物等も自生している森林もあることから、適切に管理すべき。
- シカによる被害対策に当たっては、防護柵設置後の見回りが重要。
- シカ被害対策などで失敗した事例を共有することが重要であり、それらの情報を取りまとめて対策に取り組むことも必要。
- 三嶺地区のシカによる被害は、徳島県側でも年々大きくなっている。国有林においても対策を検討すべき。
- シカ被害が顕在化する中で、天然更新を行うことは林地の荒廃につながる可能性がある。
- 林齢の平準化を実行する上で、どのような箇所を伐採するのか。また、再造林の低コスト化をどのように進めていくか検討すべき。
- 再造林に当たっては、スギやヒノキばかりでなく良材が不足しているマツなどの植栽も検討すべき。
- せっかく育てた木材については、木質バイオマスや合板用材のほか、A材としての利用の拡大に向けた対策が必要。
- 住宅密集地では防火上の基準から外壁部分に木材が使えない。木材利用拡大に向けた製品・技術の開発が必要。